

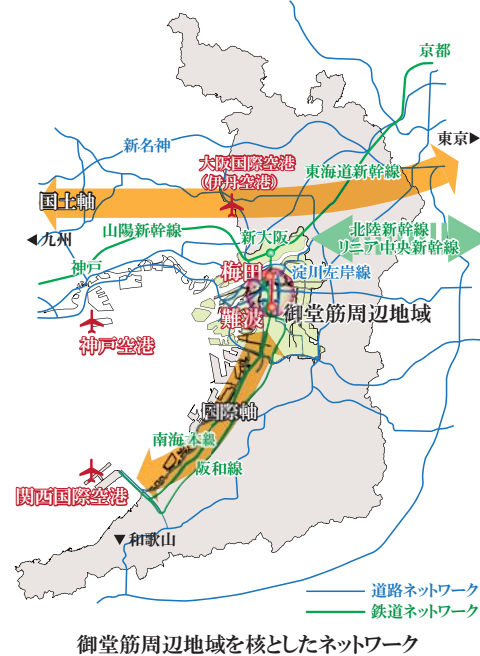
御堂筋 将来ビジョン〔概要版〕 世界最新モデルとなる、人中心のストリートへ。

1. 御堂筋 将来ビジョン策定の背景

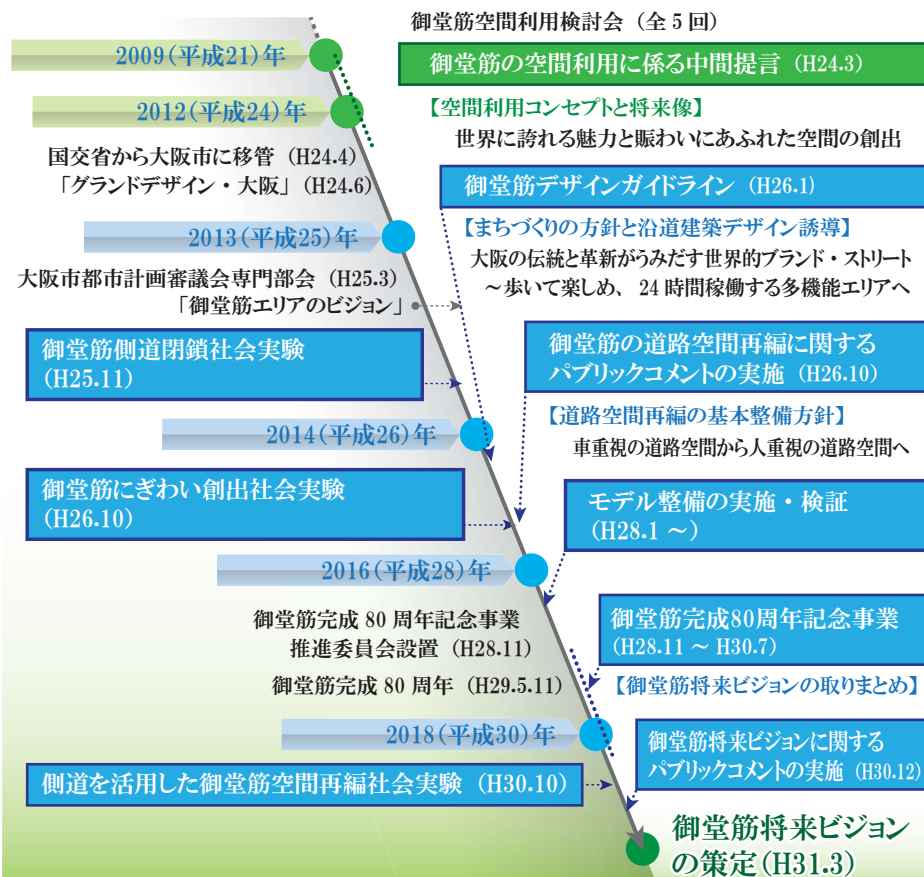
大阪都市再生環状道路の整備や北陸新幹線・リニア中央新幹線といった交通インフラ整備や関西国際空港、大阪国際空港（伊丹空港）、神戸空港の3空港の一体運用等により、今後 20 ～ 30 年で、メガリージョンとしての関西都市圏の形成が大きく進むことが予想されます。

御堂筋は、現在でも業務・商業などの都市機能が集積し、都心部として多様なポテンシャルを有していますが、こうしたインフラ整備等により、今後これまで以上に大阪の都心部である御堂筋周辺に国内外から人・モノ・資金・企業・情報がもたらされることが期待されます。このようなことから、御堂筋は、メガリージョンとしての関西都市圏・大阪経済の中核として圏域の成長を支えるエンジンになることが求められます。

そのため、御堂筋を世界に誇れる人中心のストリートへ空間再編することにより、都市構造のリノベーションを推進させることで、人・モノ・資金・企業・情報といった都市資源を呼び込み、ひいては呼び込んだ都市資源の交流を促し、新たな魅力や価値を創出することができる”ストリート”へ転換していくことが求められます。



【道路空間の再編に向けた検討経緯】



2. 御堂筋 将来ビジョン

車中心から、人中心のストリートへ転換することで、新たな体験ができる空間を生み出し、その空間を通じてストックした「人・モノ・資金・企業・情報」といった都市資源の交流を促し、新たな魅力や価値を創出するとともに、それらを世界に発信していくことが可能になります。

既存の「道路」の枠にとらわれない新しい機能を導入することで、「多様な人材が集う観光・MICE 都市」「出会いが新しい価値を生む多様性都市」「世界に誇れる自慢の都市」「多様な楽しみ方ができる周遊・滞在都市」などの大阪がめざすべき未来の都市像の実現に期待が持たれます。

3. 将来ビジョン実現に向けた段階的な取組み

- 将来ビジョン実現に向けては、都心部全体の交通ネットワークの再編をはじめ、歩行者と多様なモビリティが安全に共存できる仕組みづくりなど、様々な分野において段階的に取組む必要があります。特に、都心部全体に与える交通影響が大きいことから、まずは側道を活用した空間再編を行うことで、段階的に人中心の空間を広げていくこととします。
- 御堂筋の地域特性やこれまでのモデル整備、社会実験の結果をふまえ、まずは千日前通から道頓堀川区間を先行して側道の歩行者空間化を進めることとし、社会実験や整備後の検証を繰り返しながら、順次北側に向けて取組みを進めていくこととします。
- 人中心～フルモール化に向けては、御堂筋完成 100 周年（2037 年）をターゲットイヤーとして、都心部全体の交通ネットワークの再編や人と多様なモビリティが安全に共存できる空間・仕組みづくりに関する検討を進めるとともに、交通・にぎわい創出社会実験等を通じて機運醸成を図りながらビジョンの実現をめざします。

現況



【道路空間】

「世界最新モデルとなる、人中心のストリートへ」

～まちとつながり、人がつながっていく新たな価値を創出する空間へ～

【道路空間の取組み】

人中心～フルモール化

御堂筋完成100周年をターゲットイヤーとした検討と実践を推進



【都 市】

都市のリノベーション～大阪・関西の成長

～都市のリノベーションを推進するトリガーとしての道路空間の再編～

情報ネットワーク

都市インフラネットワーク

将来ビジョン

人中心～フルモール化

▶ 長期目標

御堂筋完成100周年（2037年）をターゲットイヤーとして設定



【人中心～フルモール化に向けた主な取組み】

- 側道歩行者空間化に向けた主な取組みの継続・発展
- 都心部全体の交通ネットワークの再編
- 人と多様なモビリティが安全に共存できる空間・仕組みづくり…など

ファーストステップ

側道歩行者空間化

▶ 短・中期目標

短期目標：千日前通から道頓堀川区間は東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年

中期目標：道頓堀川以北は2025日本万国博覧会が開催される2025年



【側道歩行者空間化に向けた主な取組み】

- 社会実験などによる交通や荷捌きへの影響の検証
- 交通や荷捌き、自転車の通行や駐輪のあり方、空間の利活手法などを地元関係者と議論する場を設置
- 持続可能な公民連携体制づくり…など

※取組みの進捗状況により、目標年次を変更することがあります。

4. ファーストステップ「側道歩行者空間化」に向けた取り組み

整備計画の立案

- 渋滞や荷捌きなど、御堂筋をはじめ周辺道路や地域に与える影響が大きいことから、まずは道路の利用状況（通行、駐停車、荷捌きなど）を調査するとともに、側道を閉鎖した際の交通影響等を検証するためのシミュレーションを実施し、駐停車・荷捌き需要等への対応を含め、実現に向けた整備形態のあり方を検討する必要があります。
- また、地域特性や道路の利用状況、地域課題をふまえ、自転車の通行方法や駐輪のあり方、道路空間の利活用のあり方等についても、地元地域や関係機関と議論し、整備計画を立案する必要があります。

社会実験の実施・検証

- 整備計画の立案時に検討した内容をふまえ、実際に側道を閉鎖して整備形態に近い形を現地に再現することで、渋滞や周辺道路に与える交通影響をはじめ、駐停車・荷捌き需要、自転車の通行方法や駐輪のあり方、道路空間の利活用のあり方等を含めた整備形態のあり方を検証し、整備計画の実現可能性・有効性を検証する必要があります。



実施設計～ハード整備

- 社会実験の検証結果や、整備後の利活用のあり方に関する議論をふまえ、地元地域や関係機関と調整のうえ、整備形態を決定し、ハード整備を実施する必要があります。

新たな魅力や価値を創出する「みち」へと再編

- 整備計画の検討段階から社会実験、整備、利活用のあり方等について、地元地域や関係機関と意見交換しながら事業を展開していくことで、時代の最先端の社会ニーズをとらえ、従来の制度や枠組みにとらわれず、新たな魅力や価値を創出する「みち」へと再編することをめざします。

側道歩行者空間化

地元協議会の設置

- 地元町会をはじめ、商店会、沿道地権者やまちづくり団体等が中心となった地元協議会等を設置していただくことで、整備に向けた情報交換をはじめとし、地域課題を共有しながら、整備計画の検討段階から整備後の利活用のあり方等について意見交換し、社会実験や整備に向けた合意形成を図ることが必要となります。



公民連携体制の構築

- 現在、御堂筋においては、壁面後退部分を活用したマルシェやコンサート等のにぎわい創出活動が民間主体で行われていますが、道路空間再編により創出された新たな空間を活用し、道路空間を最大限に活かした利活用、アクティビティを促すことで、新たなにぎわいを創出していくことが可能となります。
- 新たなにぎわいの創出に向けては、従来の枠に捉われず、道路空間利用に関する規制の緩和や民間が活動しやすい制度整備を行う一方で、そうした制度を活用し、活動を継続的に行う民間側の受け皿が必要となることから、公民が連携して具体的な取り組み内容や仕組み・制度について意見交換する場を構築する必要があります。

利活用の推進

- 利活用の推進にあたっては、公民連携体制のもと地元地域、まちづくり団体、企業等の積極的な参加・協働のうえ、まずは路上駐輪や放置自転車防止に関する啓発活動を行うなど、道路の適正な利用を促す地域活動を推進するとともに、清掃美化活動をはじめとしたきめ細かな日常の維持管理とともに、花植え活動など、美しい街並みを創出していく必要があります。
- また、道路空間再編により創出された新たな空間を活用し、滞留・休息空間や利活用空間を創出することで、新たなにぎわいを創出していくことが可能となります。



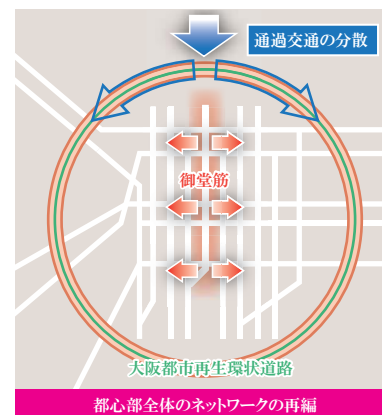
5. 将来ビジョン「人中心～フルモール化」に向けた取り組み

- 自動走行車の導入など、技術の進展等による移動・物流といった交通環境の変化や大阪都市再生環状道路の構築となった周辺道路の整備状況を見据えながら、都心部全体の交通ネットワークの再編や人と多様なモビリティが安全に共存できる空間・仕組みづくりに関する検討を進めるとともに、交通・にぎわい創出社会実験等を通じて機運醸成を図りながらビジョンの実現をめざします。

都心部全体の交通ネットワークの再編

大阪市域を移動する自動車交通量は多く、都心部を経由する通過交通、都心部へ集中する交通、都心部の高密度な都市機能集積により発生する交通に対応する必要があります。

御堂筋のフルモール化に向けては、大阪都市再生環状道路の構築により御堂筋に流入する通行交通を分散させることに加え、御堂筋周辺の幹線道路や御堂筋に接続する東西道路など、都心部全体のネットワークの再編を行う必要があります。



人と多様なモビリティが安全に共存できる空間・仕組みづくり

人中心の道路空間として、歩行者を優先としながらも、荷捌き車両や緊急車両の通行をはじめ、自転車やパーソナルモビリティなどの新たな移動ツールなど、多様なモビリティが安全に共存することのできる空間・仕組みづくりを行っていく必要があります。

※パーソナルモビリティとは、歩行者と既存の移動手段（自転車、自動車など）の間を補完する目的で開発されている個人向けの移動ツール



スペイン バルセロナ ランプラス通り 写真出典：Alessio Catelli / Shutterstock.com

